

(12) へき地・複式教育の充実

小規模校・少人数学級の特性を生かし、一人一人の子どもの個性の伸長と資質・能力の育成を図るとともに、社会性の育成に努める。

実践事項

★は、特に力点を置いて取り組んでいただきたい実践事項

1 へき地の三特性（へき地性、小規模性、複式形態）を生かし、地域に根ざした特色ある教育活動の推進

- ・地域との密接なつながりを生かした校外学習・体験学習を実施する。
- ・少人数の利点を生かし、互いのよさを認め合い励まし合う人間関係の構築や、児童生徒全員の活躍の場を保障した学級経営及び生徒指導に努める。
- ・校内研修を充実させ、それを生かした児童生徒の主体性の育成を図る指導を実践する。
（「へき地・複式教育ハンドブック」等を活用したり、近隣の複式学級を有する学校の授業を参観したりすることなどを含む。）
- ・多様な価値観にふれるために、遠隔教育や様々な学習形態を取り入れるなど、指導を工夫する。

※「様々な学習形態」とは…

- ・合同学習…校内において2学級以上の児童生徒が合同で行う学習活動
- ・集合学習…近隣の2校以上の児童生徒が1か所に集まって行う学習活動
- ・交流学習…規模や生活環境の異なる学校または異校種の学校が互いに交流して行う学習活動

2 複式学級における実情に即した年間指導計画の作成

- ・指導の効果を高められるよう、2つの学年の学習内容の関連を考慮し、単元の配列を工夫したり単元全体をずらしたりするなどして年間指導計画を作成する。
- ・同単元同内容指導において、教科の特性（系統性や順次性など）や児童生徒の実態（学年差、個人差など）に考慮した年間指導計画を作成する。

3 複式学級における「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業づくり

- ・直接指導、間接指導及び同時間接指導の特長を理解し、学習活動が効果的に行われるように「わたり」と「ずらし」を工夫する。
- ★児童生徒が自己調整しながら学習できるよう、ICT等を効果的に活用し、児童生徒が自分の学習の状況を把握・分析したり、自分に合った方法を選んだりする場を設定する。
- ・児童生徒が自分たちの力で学習を進めたり、児童生徒相互で考えを深め合ったりするために、ガイド学習等を充実させる。

※「主体的・対話的で深い学び」の視点については、「(1)授業の充実 実践事項2(1)」参照

※ガイド学習……間接指導をより充実させるために考え出された学習の形態で、学級の中から選ばれた案内役の児童生徒である学習リーダー（ガイド）が教師の指導のもとに立てた学習進行計画によって、主として間接指導時の学習を進行しながら共同学習する方法